

第4章 施 策 体 系

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

生活課題※を解決していくには、まちを構成する3つの**セクター**（**市民**※、企業、行政）が協力し、支えあうことが必要であり、その結果として快適で楽しいまちが構築できます。その実現に向けて、次の方針・方策により、各セクターとの協働による生涯学習のまちづくりを推進します。

方針（1） 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

本市では、公民館、図書館、博物館等の生涯学習施設を中心に、市民へさまざまな学習機会を提供してきました。他に、生涯学習関係部局においては、各行政課題の解決のための学習機会の充実に努めてきました。今後、これらの学習機会のさらなる充実を図っていきます。

また、市内における生涯学習資源の情報提供や学習相談の充実に努めます。

方策① 学習情報の提供・相談

市内における生涯学習資源（指導者・講師、専門・関連施設、学級・講座・イベント、団体・サークル、地域の歴史・伝統文化等）の情報を、市民が必要とする情報としてアクセスしやすいよう、既存の**那覇市生涯学習情報提供システム**※を活用して、その充実に努めます。

本市立図書館においては、運営の理念「市民への質の高い情報提供をめざして」の実現にむけて、図書館コンピューターシステムの整備・充実に努めながら、市民の読書活動を推進するために、地域の特性を生かした読書会、おはなし会、講座等の主催事業を開催します。

また、職員への研修や図書館間及び各関係機関とのネットワークを活用して、市民の調査相談（**レファレンス**※）への対応能力向上に努めます。

生活課題：ここでの生活課題の捉え方は、①家庭生活、②地域生活、③職業生活、④余暇生活として分類し、それぞれの生活場面ごとの現象（問題）から課題をとり出すことをいう。

市民セクター：特定非営利活動法人、一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、医療法人、特定公益増進法人（学校法人、社会福祉法人等）、協同組合、法人格を持たない地縁団体（自治会・町内会、婦人・老人・子供会、PTA、ボランティア団体等）等の民間非営利組織のセクター。

那覇市生涯学習情報提供システム：那覇市や那覇市教育委員会のホームページ上に「あけもどろネット」のリンクを設定し、本市で開催される講座・イベント等の生涯学習情報提供事業のこと。

レファレンス：図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料等を求めた際に、図書館職員がそのために必要な資料を検索・提供等を行うこと。

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策① 学習情報の提供・相談

ア「那覇市生涯学習情報提供システムの活用」

本市の生涯学習情報提供システムを本市HPトップ画面に掲載し、閲覧しやすい環境整備を行います。本市の生涯学習情報提供システムへ市民のアクセスが増えることで、本市の生涯学習情報の周知を図り生涯学習の推進となります。

1) 指標とめざそう値

指 標 名	那覇市生涯学習情報提供システムのアクセス数
指標の意図 ・ 説 明	多様な講座等の情報を広く発信し、提供していくことは、利用者の学習支援を行う上で重要なことから、生涯学習情報の収集や整理を行うとともに、適切な情報提供をしていきます。また、当該システムの利用者状況を把握するためアクセス数を設定します。
現 状 値	2,111 件 (2016 年)
めざそう値 (単年度値)	2,500 件 (2020 年)
	3,000 件 (2022 年)
	3,000 件 (2024 年)

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策① 学習情報の提供・相談

イ「図書館サービスの充実」

蔵書内容を充実させること、おはなし会等をとおしての子どもの読書活動の推進、多彩な情報提供、図書館ホームページからの所蔵検索機能や本の予約サービス等、子どもから大人まで、すべての市民へ役立つ図書館として利用促進を図り、学習情報提供の充実に繋がります。

2) 指標とめざそう値

指標名	図書館来館者数（年間）
指標の意図 ・ 説明	多様な年齢層の幅広いニーズに応える魅力ある図書館づくりに努め、貸出、レファレンス等市民への図書、情報等の提供と相談の充実につなげ、市民に役に立つ図書館として利用推進を図ります。
現状値	469,305 人（2016 年）
めざそう値 （単年度値）	475,300 人（2020 年）
	478,300 人（2022 年）
	481,300 人（2024 年）

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策① 学習情報の提供・相談

ウ「図書館サービスの充実（市民の調査研究の支援）」

図書館においては、市民の学習、調査、研究を支援するためのサービスに努め、市民一人ひとりの興味・関心に寄り添った、資料の検索・資料の情報提供、調べもののお手伝いをレファレンス業務として行っています。

研修等に参加して、市民へのレファレンス対応能力の向上に努め、レファレンス数を増やしていくことで、市民の学習への満足度を高め、学習意欲の向上、生涯学習の発展に繋げていきます。

3) 指標とめざそう値

指標名	レファレンス（調査相談）数
指標の意図・説明	生涯学習の窓口機能として、レファレンス対応（調査相談を受け、資料提供をおこなうこと）の充実を図ることにより、市民の学習意欲を高めるよう努めます。
現状値	907件（2016年）
めざそう値 （単年度値）	1,400件（2020年）
	1,700件（2022年）
	1,780件（2024年）

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

地域住民が主体的に地域生活の課題を解決していくための支援として、地域生活の課題に関する学習機会の提供を今後も充実させていきます。ここでは生涯学習関係部局で開催している事業（学級・講座等）の充実について、提示します。



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方策(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

ア「講座（市民講座・成人講座・高齢者学級・少年教室・青年講座・親子ふれあい学級・家庭教育学級）の提供」

本市公民館の講座・学級を通して、地域生活の課題に関する学習機会を今後も継続して提供し、講座内容の充実を図ることで、市民の地域活動への関心を高めていきます。

4) 指標とめざそう値

指標名	地域生活の課題に関する講座・学級（市民講座・成人講座・高齢者学級・少年教室・青年講座・親子ふれあい学級・家庭教育学級）の提供数
指標の意図・説明	体系的な学習を実施する講座・学級について、地域生活の課題に関する学習を今後も継続して実施数を維持することで、学習機会の充実を図り、市民の地域活動への関心を高めます。
現状値	85回（2016年）
めざそう値 （単年度値）	85回（2020年）
	85回（2022年）
	85回（2024年）

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

イ「男女共同参画に関する講座等の充実」

性別による固定的役割や固定観念の解消・性の多様性の尊重等、男女共同参画に関する講座を実施し、人権教育・意識啓発を行い、男女共同参画社会の実現を目指します。

5) 指標とめざそう値

指標名	男女共同参画に関する講座の延べ受講者数（累積）
指標の意図・説明	男女共同参画社会の実現に向けて、なは女性センターの市民向け講座において、男女共同参画に関する講座の受講者を増やしていくことは、男女共同参画についての市民の理解と協力が得られることから、講座等の充実を図っていきます。
現状値	24,961人（2016年）
めざそう値 （累積値）	27,360人（2020年）
	28,560人（2022年）
	28,677人（2024年）

（なは女性センターの事業）

当センターは、市民向け講座の開催、学習室・子ども室・交流室・図書コーナーの利用案内、広報誌「なは女性センターだより」の発行・配布、相談室「ダイヤルうない」等がございます。

（講座の様子）



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

ウ「都市計画に関する講座等の開催」

那覇市のハード面における将来のまちづくり・交通計画・街並みのデザイン等都市計画に関する講座やパネル展を開催します。

6) 指標とめざそう値

指標名	那覇市の都市計画に関する講座等の開催数
指標の意図・説明	那覇市内の交通渋滞や市街地の再編等、地域生活の課題に対して、那覇市のハード面における将来のまちづくり・交通計画・街並みのデザイン等都市計画に関する講座やパネル展を開催し、市民に対して学習の機会を設けることで、那覇市の将来都市像と都市づくりについて関心を高めてもらいます。
現状値	2回(2016年)
めざそう値 (単年度値)	3回(2020年)
	3回(2022年)
	5回(2024年)

(パネル展：モビリティウィーク&カーフリーデーへの取り組み)

平成19年度よりヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーの取組に賛同し、クルマ優先社会の問題を考えるきっかけとするため「なはモビリティウィーク&カーフリーデー」を実施し、モビリティウィーク期間中に市民に世界の良好な公共交通のあり方等を紹介するため、「都市と交通パネル展」を実施しています。

また、モビリティウィーク期間中の1日だけをカーフリーデーとし、「車から解放されたまち」を実際に体験するため、主に、トランジットモールを開催する国際通りを会場とすることで、市民一人一人が車のない都市環境を実際に体験し、その変化を実感し、クルマ優先社会の問題を考えるきっかけとするための社会啓発を行っています。



都市と交通パネル展



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

エ「地球温暖化対策の学習（講座）の充実」

環境政策課で開催している地球温暖化対策に関する講座内容を充実することにより、市民が省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進していきます。

7) 指標とめざそう値

指標名	地球温暖化対策の学習（講座）の満足度
指標の意図 ・説明	地球温暖化対策の学習（講座）は多種多様であり、其々の満足度を基に、講座内容等の改善や新規講座の開設に役立て、講座を充実することで、市民が省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進できる。
現状値	85%（2017年）講演会等のアンケートからの算出
めざそう値 （単年度値）	88%（2020年）
	91%（2022年）
	95%（2024年）

（エコライフ等に関する講座等を開催）

環境政策課では、市民から選ばれたエコライフサポーター（環境推進員）との協働により、出前講座等を実施しています。出前講座では、地球温暖化の現状や対策を説明するとともに、市民の生活に役立つ省エネ活動やリサイクルを推進し、市民のエコライフをサポートしています。



エコライフ講座



<緑のカーテンの講習と実技風景>

(小学生を対象とした省エネに関する講座等を開催)

那覇市地球温暖化対策協議会と協働で、小学生を対象として、火力や風力を利用した発電等のエネルギーに関する実験等をとおして、省エネについて楽しみながら学習していく、出前講座を開催しております。



<火力発電と風力発電の実験風景>

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習プログラムの提供や情報の提供・相談の充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの提供の充実

オ「環境学習（講座）等の開催の充実」

緑化センターにおいて、緑化の意識および緑化の技術の普及に関連する講座や展示会等を開催していきます。

8) 指標とめざそう値

指標名	指定管理運営において那覇市緑化センターでの緑化に関する講座・展示会等の開催数
指標の意図・説明	緑化の意識および緑化の技術の普及に関する講座や展示会等を開催し、市民に対して学習の機会を設けることで、各家庭や地域において緑化の推進に繋げていきます。
現状値	20回（2016年）
めざそう値 （単年度値）	23回（2020年）
	25回（2022年）
	27回（2024年）

（緑化に関する講座等を開催）

那覇市緑化センターでは、参加者が楽しみながら植物の育て方を学びまた、各家庭等においても実践できるような講座の開催を実施しています。

ブーゲンビリアの育て方講習



沖縄の食べられる野草・山菜について講座



サガリバナの育て方講習



リュウキュウマツの剪定講座



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方針② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

力「自然環境啓発の学習（講座）内容の充実」

那覇市の自然環境の保全に向けて、自然観察会等へ参加する市民の満足度を高めることは、那覇市の身近な自然環境の大切さを認識してもらうとともに、自然環境保全に関する意識を高めることに繋がることから、講座等の内容充実を図っていきます。

9) 指標とめざそう値

指 標 名	自然観察会等へ参加する市民の満足度
指標の意図 ・ 説明	ホテル観察会等各啓発事業に参加する市民の講座内容に対する満足度（参加意欲等）の割合を示す指標で、講座内容の充実等に繋げる。
現 状 値	70%（2017年）
めざそう値 （単年度値）	73%（2020年）
	75%（2022年）
	80%（2024年）

（大嶺海岸観察会）

那覇空港のすぐ沖合に広がる大嶺海岸は、那覇市に残された自然海岸であり、干潮時には広大な礁池^{イノー}が姿をあらわします。そこにはサンゴ礁原、藻場や干潟等の多様な環境があり、いろいろな生き物も生息しています。このような場所は沖縄本島中南部のあちらこちらに広がっていましたが、今では埋め立てにより、ほとんど姿を消してしまっています。なお、大嶺海岸においても、近年の空港拡張工事等により、一部海岸域が残るのみとなっています。この残された自然とのふれあいを通して人と海等とのつながりについて、改めて考える機会としてもらうため、市民等を対象とした観察会を行っています。



<大嶺海岸で生物観察>

那覇市においては、都市化が進みホタルが見られる場所も少なくなっていますが、末吉公園にはオキナワスジボタルやクロイワボタル等の陸生のホタルが生息しています。ホタルの生態や生息に適した環境を那覇市自然観察指導員と共に観察し、どのように自然環境を保護、保全していく必要があるのかについて、参加者に学んでもらっています。

(湧水めぐり「首里カーマーイ」 首里地区)

都市化、緑地の減少等で市域における地下水の保水力は低下しており、かつて人々と身近な存在であった井戸や湧水を取り巻く環境も大きく変化してきています。先人の知恵を学び、水環境の保全について考える機会として、市民を対象に首里地区の湧水めぐりを行っています。

☆☆ 湧水めぐりルート ☆☆

集合場所

首里城公園以紗ヶ谷-入口前の広場

- ①真珠道→②内金城嶽
- ③上又東門ガー・下又東門ガー
- ④新垣又カ→⑤潮汲川
- ⑥金城大樋川
- ⑦仲乃川→⑧禰覇川
- ⑨寒水川樋川→解散



<首里カーマーイ（寒水川樋川）>

(新都心沖縄の杜観察会)

都市化の進行が著しい那覇新都心、その中に「沖縄の杜」があります。古くからの地層が残るその杜には、市街地にも関わらず貴重な自然が残っており、様々な動植物が見られます。そこで、普段あまり入ることができない沖縄の杜で、様々な動植物を観察することで、身近に残された自然環境の大切さを認識する機会とするため、市民を対象に観察会を実施しています。



<新都心沖縄の杜観察会>

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習プログラムの提供や情報の提供・相談の充実

方策① 地域生活の課題に関する学習プログラムの提供の充実

キ「心のバリアフリー啓発事業の充実」

福祉のまちづくりを進めるためには、建築物、道路等のハード整備を進めるだけでなく、ハード整備を補完するような人的支援や情報提供等のソフト面での対応を進めるとともに、高齢者や障がいのある方々への無理解、偏見、差別をなくしていくこと等、いわゆる心のバリアフリーが必要です。心のバリアフリー啓発のためのセミナー等を拡充することにより、福祉のまちづくりの推進を図ります。

10) 指標とめざそう値

指 標 名	小学生向け心のバリアフリーセミナー受講校数
指標の意図 ・ 説明	高齢者や障がいのある方に対する心のバリアフリー啓発セミナーを受講した小学校の校数を指標とする。毎年、5校以上実施し、市内小学校全校が受講することを目指す。
現 状 値	5校（2016年）
めざそう値 (単年度値)	5校（2020年）
	5校（2022年）
	5校（2024年）

（小学生向けセミナー）

車イスやアイマスク等による疑似体験を経験することにより、日頃接する機会の少ない高齢者や障がいのある方への理解を促し、心のバリアフリーを広めるセミナーを実施しています。体験学習を通して身近に色々な人が住んでいることを気づき、考える機会となっております。



（サービス介助セミナー）

セミナーでは、高齢者や障がいのある方々の日常活動の一部を疑似体験することで、高齢者や障がいのある方々への理解を深め、介助体験で、高齢者や障がいのある方々への声のかけ方や接し方、コミュニケーションのとり方を、本人の気づきを促しながら学習することに重点を置いて実施しています。



高齢者疑似体験(白内障ゴーグル)

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

ク「認知症サポーターの養成・育成」

認知症に対する地域住民の理解を深め、地域全体で認知症の人や家族を見守り、支えるための認知症サポーターの養成・育成を進め、地域での認知症の人や家族の居場所づくりや見守り体制等のネットワークづくりの充実を支援します。

1.1) 指標とめざそう値

指標名	認知症サポーターの養成の累積数
指標の意図・説明	認知症サポーターの養成講座を開催し、多くのサポーターを養成することで、認知症に対する地域住民の理解を深め、地域全体で認知症の人や家族を見守り、支えるための環境づくりを目指します。
現状値	16,879人(2016年)
めざそう値 (累積値)	24,000人(2020年)
	28,000人(2022年)
	29,000人(2024年)

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実

方策② 地域生活の課題に関する学習プログラムの充実

ケ「小中学生が様々な体験や学びができる機会の提供」

本市公民館主催による少年教室や親子ふれあい講座等を通して様々な体験や学びの場を提供していきます。また、学校や児童館、市子連、青少年関係団体等と連携を図り、子どもの学びや遊びの機会が提供できるように努めます。

12) 指標とめざそう値

指標名	小中学生が参加できる講座等の参加者率について
指標の意図・説明	本市公民館では年間120件以上小中学生が参加できるプログラムを実施し、市内在住の小中学生の1割が参加しています。今後も継続して小中学生に多様な機会を提供できるよう、小中学生の講座参加率を維持しながら、各企画内容を精査し、他機関と連携してニーズに対応した効果的な講座の実施をめざします。 小学生・中学生が様々な学びを体験できるよう少年教室や親子ふれあい講座等の充実を図ります。また公民館講座以外でも関係機関と連携しながら子どもの学びや遊びの機会が提供できるように努めます。
現状値	12% (2016年)
めざそう値 (単年度値)	12% (2020年)
	12% (2022年)
	12% (2024年)

方針（２） 人材育成の充実

地域生活の課題を解決していくためには、人と情報、人と人、人と学習資源を適切に結びつける（調整機能の）役割を担い、さまざまな意見等を調整し、対話を促していく能力をもつ人材の育成が急務です。

方策① 本市職員研修等の充実

生涯学習のまちづくり業務に携わる市職員は、さまざまな市民意見等を調整し、対話を促し、地域生活の課題解決を図っていく能力が求められています。そこで、社会教育行政（公民館・図書館・博物館等）職員や生涯学習関係部局職員を対象に生涯学習に関する研修の実施及び研修への職員の派遣を行い、職員の資質向上に努めます。



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(2) 人材育成の充実

方策① 本市職員研修等の充実

「市職員研修の充実」

市公民館主催の職員対象研修や市立図書館職員専門研修（レファレンス等）、生涯学習課主催の社会教育指導員定例会、県等主催の生涯学習関連職員対象研修会等の周知を図り、参加を促し、生涯学習関係職員の資質向上に努め人材育成の充実を図ります。

1.3) 指標とめざそう値

指標名	生涯学習に関する職員研修の参加人数
指標の意図 ・ 説明	公民館、図書館、生涯学習課主催の職員研修や県等で実施されている生涯学習関係研修等へ生涯学習関係職員の参加を促すため研修等の情報提供に努めます。 人事異動等により研修等に参加する職員が変わることや、毎年度、研修等の内容を変えることで、職員個々の資質向上につなげていきます。
現状値	— (2017年)
めざそう値 (単年度値)	100人 (2020年)
	100人 (2022年)
	150人 (2024年)

対象研修会等：公民館主催研修会、図書館主催研修、社会教育指導員定例会、県社会教育研究大会、社会教育主事講習

方策② 生涯学習に係る自主団体等の育成・支援

本市公民館では、社会貢献活動としてサークル団体が学んだことを地域に還元することができるよう支援を行います。

また、本市では、協働によるまちづくりを実践する人材の発掘・育成のため「なは市民協働大学」及び「なは市民協働大学院」を開設し、人材育成に努めていきます。



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(2) 人材育成の充実

方策② 生涯学習に係る自主団体等の育成・支援

ア「公民館事業に係る自主団体等の発掘・育成・支援」

本市公民館事業(学級・講座等)の中から、サークル活動へ移行のための育成及び、その後社会貢献活動につなげていくための支援を行います。

14) 指標とめざそう値

指標名	公民館事業に係る自主団体等の発掘・育成・支援の数
指標の意図 ・ 説明	本市公民館では、サークル団体等を社会貢献活動につなげる支援を行い、生涯学習のまちづくりを推進します。
現状値	50件(2016年)
めざそう値 (単年度値)	53件(2020年)
	55件(2022年)
	55件(2024年)

(首里公民館の学社連携事業)

首里公民館では、城西小学校と連携して同校3年生の総合学習の時間を公民館サークル活動の体験学習として受け入れています。子ども達への指導は当該サークルの講師や会員が学びの地域還元として協力。また、その成果を公民館まつりで発表する等して、公民館が子どもの健全育成にも貢献していることを紹介しています。



手話



琉舞



中国武術

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(2) 人材育成の充実

方策 ②生涯学習に係る自主団体等の育成・支援

イ「まちづくり活動の学びと実践の場の充実」

協働によるまちづくりを実践する人材の発掘・育成のため「なは市民協働大学」及び「なは市民協働大学院」を開設しております。

15) 指標とめざそう値

指標名	「なは市民協働大学」及び「なは市民協働大学院」の卒業生数
指標の意図・説明	協働によるまちづくりを実践する人材の発掘・育成をおこなっている「なは市民協働大学」及び「なは市民協働大学院」の卒業生数が増加することで、本市のまちづくりが活性化されます。また、卒業生が、地域のリーダーとして、学校区域を拠点としたコミュニティづくり等、各地域で活躍する姿を目指します。
現状値	326人(2016年)
めざそう値 (累積値)	646人(2020年)
	806人(2022年)
	867人(2024年)

(なは市民協働大学)

「なは」を知り、好きになることから協働によるまちづくりを学び、受講生間のつながりから協働によるまちづくりの実践者を増やすことを目的として開催しています。



(なは市民協働大学院)

周囲の人を楽しく巻き込みながら、地域でまちづくりコーディネーターとして活躍できる人材や、市政に積極的に関わることができる人材の発掘・育成のため、なは市民協働大学の上級編として開催しています。



方針（3）NPO、大学、企業等との連携

生活課題の解決に向けては、NPOの特性である柔軟性や独自性を生かしたプロジェクトや大学、専門学校の有する専門知識・技術の活用、企業の社会貢献活動等が融合した協働によるまちづくりを推進します。

方策：NPO、大学、企業等との連携

協働のまちづくりを実践している市民の中には、NPOで活動している方や大学関係者、企業に勤めている方、個人事業主、ボランティア活動をしている方等がいます。このような方々と連携して、協働による生涯学習のまちづくりを推進していきます。



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(3) NPO、大学、企業等との連携

方策 NPO、大学、企業等との連携

ア「那覇市協働大使委嘱と市民団体の活動支援」

本市では、各地域や様々な分野で、まちづくりについて積極的な活動をしている方々に、これまでの活動に対する敬意と今後の継続した活動への激励の意を込め、「那覇市協働大使」として委嘱を行っております。協働大使で構成された市民活動団体である「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」に対しても、連携しながら支援を推進していきます。

16) 指標とめざそう値

指標名	協働大使委嘱者数
指標の意図 ・ 説明	協働大使として委嘱する事で、協働によるまちづくり活動を実践している方々を繋ぎ、点から線へ、線から面へと、協働によるまちづくりが本市の隅々にまで広がっていく姿を目指します。
現状値	867人(2016年)
めざそう値 (累積値)	1,017人(2020年)
	1,267人(2022年)
	1,376人(2024年)

(協働大使・市民団体の活動支援)

1998(平成10)年に策定された那覇市の総合計画に「市民との協働」が盛り込まれて以来、協働に関する取り組みが、様々な場面で語られるようになりました。

平成23年8月に設立された「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」では、協働大使の自主的な活動の支援を

行うとともに、協働大使相互の連携を図るための様々な取り組みを展開し、本市の協働によるまちづくりのさらなる推進に寄与しています。

また、NPO活動支援センターと協働大使活動支援センターを統合した「なは市民活動支援センター」を協働によるまちづくりの拠点となる「なは市民協働プラザ」内に設置し、NPO法人を含むすべての市民活動の支援を行っております。

本市のまちづくりの将来像として、点在する協働大使やNPO(市民活動団体等)を繋ぎ、その力を結集しながら、市民力・地域力を強化し、協働によるまちづくりを面的に展開していきます。



協働大使委嘱式

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(3) NPO、大学、企業等との連携

方策 NPO、大学、企業等との連携

イ「商店街・通り会等との連携・協力関係の充実」

「なは商人塾」【本市が1995（平成7）年4月に平和通り沿いに設置・運営】を活用して、なはまち振興課が主催となり、商店街・通り会等の代表者等を構成団体とする「商店街事務連絡会」（月1回開催）を開催し、市政及び商店街等に関する情報の共有、商店街等の活性化・課題解決に向けた意見交換等を行います。

17) 指標とめざそう値

指標名	商店街事務連絡会の開催数
指標の意図・説明	毎月1回開催される「商店街事務連絡会」において、市の施策や商店街等に関する情報の共有及び商店街等の活性化・課題解決に向けた意見交換等を行い、行政と経済団体及び経済団体間の相互交流、連携・協力関係の充実を図ります。
現状値	12回（2016年）
めざそう値 （単年度値）	12回（2020年）
	12回（2022年）
	12回（2024年）

「なは商人塾」利用のご案内

商店街通り会の総会、役員会、交流会や商工団体独自の講演会等の会場としてご利用ください

所在地：牧志公設市場雑貨部2階

対象：市内の商業者、産業団体、関係行政機関、その他市長の認めるもの。

（※営利目的及び公序良俗に反するものは対象外）
利用申請：事前に「なはまち振興課」までお申し込みください。

利用時間：午前9時～午後10時

休館日：12月29日～1月3日

施設：研修室（延べ面積 101㎡：50人収容）

【お問い合わせ】 なはまち振興課



柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(3) NPO、大学、企業等との連携

方策 NPO、大学、企業等との連携

ウ「食の健康づくりの普及」

市民の健康づくりを支援するボランティアとして、那覇市食生活改善推進員があり、健康料理教室や食育教室等を通して正しい食生活の普及と地域住民の健康の保持増進の推進を図ります。

18) 指標とめざそう値

指 標 名	新規に健康料理教室を実施する団体数
指標の意図 ・ 説 明	年 26 回程開催されている健康料理教室において、毎年新規の団体数を 2 団体ずつ増やし、食の健康づくりの普及を図ります。
現 状 値	新規 2 団体 (2016 年)
めざそう値 (単年度値)	新規 2 団体 (2020 年)
	新規 2 団体 (2022 年)
	新規 2 団体 (2024 年)

柱1 協働による生涯学習のまちづくり

方針(3) NPO、大学、企業等との連携

方策 NPO、大学、企業等との連携

エ「社会教育施設、社会体育施設における民間ノウハウの活用」

本市では NPO や民間事業者等に本市の社会教育施設、社会体育施設の管理・運営を委託等して、柔軟性や独自性を生かしたサービスを行っています。NPO や民間事業者等による柔軟性、独自性を生かして地域課題の解決を図ることで、協働による生涯学習のまちづくりを推進していきます。

19) 指標とめざそう値

指標名	NPO、民間事業者等による管理・運営委託等を行っている社会教育施設、社会体育施設数
指標の意図・説明	社会教育施設、社会体育施設において NPO や民間事業者等のノウハウを活用して管理・運営委託等していくことで、柔軟性、独自性を生かした市民サービスを行い、協働による生涯学習のまちづくりを推進します。
現状値	6 施設 (2017 年)
めざそう値 (単年度値)	6 施設 (2020 年)
	7 施設 (2022 年)
	7 施設 (2024 年)

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～

子どもの「生きる力」を育むには、学校、家庭、地域社会が連携・協力することが強く求められています。学校区域を拠点にして、地域住民が主体的に地域の歴史や伝統文化の学習をはじめ、生活課題の解決のための学習と実践に向けて、取り組むことができるよう、次の方針・方策により支援していきます。

方針（1） 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

地域住民が学習活動を通じて絆を形成し、コミュニティづくりへの参画や生活課題の解決を図っていくため、学校の施設・設備の地域住民へのさらなる開放の推進や地域の人材活用の充実に努めます。

住民自治の育成・発展及び協働によるまちづくりのさらなる推進を図るため、校区まちづくり協議会（概ね、小学校区を単位とする）の設立を全市域で目指していきます。

方策① 総合的な学校開放の推進

学校を、地域の人々や団体等をつなぐ場、子育て・健康・福祉サービスを行う場等のコミュニティの拠点として位置づけ、学校のオープン化に努めます。また、地域住民の技能・経験を活用し、地域学校連携施設等において事業展開することで、地域の活力を高めます。

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(1) 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

方策① 総合的な学校開放の推進

ア「地域学校連携施設活用の推進」

学校施設開放の一環として、地域学校連携施設等を活用することにより、生涯学習の推進及び学校を拠点としたコミュニティづくりに努めます。

地域住民の技能・経験を活用し、地域学校連携施設等において事業展開することで、地域の活力を高めます。

20) 指標とめざそう値

指標名	地域学校連携施設利用回数及び利用人数
指標の意図・説明	指標を設定することにより、小中学校の地域学校連携施設を地域住民等に広く開放し、生涯学習の推進と学校を拠点としたコミュニティづくりを推進します。
現状値	7,941回・186,885人(2016年)
めざそう値 (利用回数・人数) (単年度値)	8,600回・190,000人(2020年)
	9,900回・200,000人(2022年)
	9,900回・200,000人(2024年)

(地域学校連携施設の利用実績)

年度		2014	2015	2016
施設数		26	26	26
学校利用	回数	1,573	1,824	1,619
	人数	62,418	70,178	73,013
PTA利用	回数	1,450	1,680	1,447
	人数	27,532	28,920	29,650
地域利用	回数	4,528	4,380	4,883
	人数	68,220	70,249	84,262
合計	回数	7,551	7,884	7,941
	人数	158,170	169,347	186,885

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(1) 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

方策① 総合的な学校開放の推進

イ「学校体育施設開放利用の推進」

学校教育活動に支障のない範囲内で、市民にとって身近な本市立小中学校の体育施設をスポーツ関係団体及び地域住民等に広く開放することにより、市民のスポーツ・レクリエーション環境を維持するとともに、学校を拠点としたコミュニティづくりを推進していきます。

現在の高い利用率（％）を維持するために、ホームページ等の広報活動の充実を図り、利用しやすい環境づくりに努めます。

21) 指標とめざそう値

指 標 名	学校体育施設開放の利用率
指標の意図・説明	学校体育施設の開放利用状況をみる指標です。 魅力ある広報活動に取り組み、現在の高い利用率（％）を維持し、学校を拠点としたコミュニティづくりを推進します。
現 状 値	94.4% (2016年)
めざそう値 (単年度値)	95.0% (2020年)
	95.0% (2022年)
	95.0% (2024年)

(学校体育施設開放の利用率)

単位：％

年 度		2014	2015	2016
体育館等	小学校	96.4%	88.3%	91.7%
	中学校	99.1%	96.4%	97.1%
合 計		97.8%	92.4%	94.4%

開放校（2016（平成28）年3月末現在）

※体育館 市立小学校（銘苅小除く）、市立中学校（古蔵中除く）（計51施設）

※武道場 石田中・神原中・寄宮中・小祿中・松島中・石嶺中（計6施設）

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(1) 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

方策① 総合的な学校開放の推進

ウ「放課後子ども教室の拡充」

学校施設や地域学校連携施設等を活用しながら、児童生徒の安全安心な放課後の居場所を提供します。放課後児童クラブと連携を図り、魅力ある放課後子ども教室の拡充を推進します。

22) 指標とめざそう値

指 標 名	放課後子ども教室等が設置されている小学校区数
指標の意図 ・ 説 明	学校施設や地域学校連携施設等を活用して、児童生徒の放課後の居場所づくりを市内全小学校区で開催できるよう努めます。
現 状 値	30 校区 (2016 年)
めざそう値 (単年度値)	36 校区 (2020 年)
	36 校区 (2022 年)
	36 校区 (2024 年)

(放課後子ども教室の推移)

年 度	2014	2015	2016
小学校区数	28 校区	28 校区	30 校区
教 室 数	37 教室	38 教室	40 教室

*1 小学校区に複数の教室が開催されている校区がある。

方策② 新たな地域自治のしくみづくり

住民自治の育成・発展及び協働によるまちづくりのさらなる推進を図るため、校区まちづくり協議会（概ね、小学校区を単位とする）の設立を全市域で目指していきます。



柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(1) 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

方策② 新たな地域自治のしくみづくり

「校区まちづくり協議会の運営の充実」

平成28年10月に策定した「小学校区コミュニティ推進基本方針」に基づき、小学校区を基本的な範囲とした新たなコミュニティである「校区まちづくり協議会」の設立を全市域で目指していきます。

23) 指標とめざそう値

指標名	校区まちづくり協議会設立校区数（累計）
指標の意図 ・ 説明	地域活動が小学校区単位で行われ、協働によるまちづくりの浸透度合いをみる指標です。全市域に協議会の設立を目指します。
現状値	6校区（2017年）
めざそう値 （累積値）	14校区（2020年）
	20校区（2022年）
	26校区（2024年）

（校区まちづくり協議会の取り組み）

校区まちづくり協議会は、校区内で活動する自治会、PT(C)A及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々が構成する団体が、それぞれの目的や活動を尊重し合い、緩やかに連携・協力しながら、合意形成を図ったうえで、地域の課題解決を図っていくことを目的として自主的に設立されています。2017（平成29）年11月末現在、市内には6小学校区のまちづくり協議会があります。各校区では、多様な地域の特色を生かし「学習支援事業」や「美化活動」等を実施しています。

【若狭小学校区まちづくり協議会】



（土曜朝塾）

【銘苅小学校区まちづくり協議会】



（PTCA熟議）

【曙小学校区まちづくり協議会】



（寺子屋教室）

【仲井真小学校区まちづくり協議会】



（国場川こいのぼりまつり）

方針（２） 家庭教育力・地域教育力の充実

生涯学習の原点として家庭教育は、子どもの人格形成を育む上で、重要な役割を果たしています。家庭教育力の向上を推進するため、各種の子育て支援事業等に努めます。また、地域住民相互の関わりが希薄化している状況の中で、青少年健全育成の充実や青少年団体の支援に努めることを通して、地域教育力を高めていきます。

方策① 家庭教育力の充実

家庭教育力の向上を推進するために、絵本を介して親子のふれあいを高める事業や本市公民館で主催する家庭教育に関する事業の充実並びに保護者が集い、子育てに関する学習や情報交換、保護者同士のネットワークが広がるための場等の学習機会の充実を図ります。また、沖縄県で取り組んでいる「親のまなびあいプログラム」を活用して家庭教育力の向上に努めます。



柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策① 家庭教育力の充実

ア「ブックスタート事業の参加率を高める」

ブックスタート事業^{*}は、市の乳児検診（9～11 カ月）に参加した赤ちゃんと、保護者を対象に、スタッフがメッセージを伝えながら読み聞かせを行います。併せて、おすすめ絵本や読み聞かせアドバイス集、子育てガイドブック等を手渡しています。ブックスタートを体験することにより、子どもへの読み聞かせや語りかけの大切さ、絵本を通じたふれあいについて学ぶことができます。保護者から評価の高い事業であり、スタッフによる受診者への声かけ等により、参加率を高めていきます。

24) 指標とめざそう値

指 標 名	ブックスタート事業参加率
指標の意図 ・ 説 明	絵本を介して親子の触れ合いと心のゆとりが生まれ、乳幼児の心と体が豊かに育つことを目的としています。今後も高い参加率を維持できるように努めます。
現 状 値	98.6% (2016 年)
めざそう値 (単年度値)	99.0% (2020 年)
	99.0% (2022 年)
	99.5% (2024 年)

(ブックスタート事業参加率実績)

年 度	2014	2015	2016
参 加 率	99.2%	98.8%	98.6%

ブックスタート事業：1992（平成4年）年にイギリスで「赤ちゃん絵本を介して楽しいひとときを分かち合おう」をキャッチフレーズに、絵本を通して親子の絆を深めることを目的に始まった運動。日本では、2000（平成12）年の「子ども読書年」を機に紹介された。活動は全国各地に広がり、これまで多くの地域でさまざまな実践経験が蓄積されてきました。

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策① 家庭教育力の充実

イ「本市公民館主催の子育て支援事業の充実」

市公民館主催による乳幼児学級・家庭教育学級・親子ふれあい教室の参加対象者の学習ニーズを把握して、魅力ある学習プログラムを作成し提供します。また、当該学級・講座の受講終了者に対して、子育て支援サークル活動への移行、社会貢献活動へのつながり等を促進していきます。

25) 指標とめざそう値

指 標 名	乳幼児学級・家庭教育学級・親子ふれあい教室の参加者の満足度
指標の意図 ・ 説 明	市公民館で主催する乳幼児学級、家庭教育学級、親子ふれあい教室の参加者の満足度を高水準で維持することで、家庭教育力の充実を図ります。
現 状 値	98% (2016年)
めざそう値 (単年度値)	98% (2020年)
	98% (2022年)
	98% (2024年)

(欠席者・アンケート無回答者を含む)

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策① 家庭教育力の充実

ウ「地域子育て支援拠点事業の拡充」

子育て支援センター、つどいの広場それぞれの機能と事業効果を検証し、地域格差を解消しながら利用者のニーズに応えられるようバランスを考慮し、小学校区に1施設を基本に増設していきます。施設増とともに、利用者を増やすための施設運営に努めます。

26) 指標とめざそう値

指 標 数	地域子育て支援拠点施設数
指標の意図 ・ 説 明	子育て家庭に対し、交流の場や子育てに関する相談・指導、子育てサークルへの支援等の育児支援を推進するため、地域子育て支援拠点施設及びその利用者を増やすことで、家庭教育力の充実に図ります。
現 状 値	18施設 (2016年)
めざそう値 (累積値)	19施設 (2020年)
	19施設 (2022年)
	19施設 (2024年)

(年度別利用者数実績)

年 度	2014	2015	2016
つどいの広場	35,109人	39,183人	37,316人
子育て支援センター	56,325人	64,884人	65,829人

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策① 家庭教育力の充実

エ「親のまなびあい」プログラム受講団体数

家庭教育はすべての教育の基盤となるもので、子どもたちに基本的な生活習慣を身につけさせ、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を促すうえで、重要な役割を担っています。

保育所、幼稚園、こども園、小中学校や PTA、企業等に「親のまなびあい」プログラムの周知を図り、いろいろな機会積極的に活用してもらうことで、家庭教育を支援し、家庭教育力の向上・充実につなげていきます。

27) 指標とめざそう値

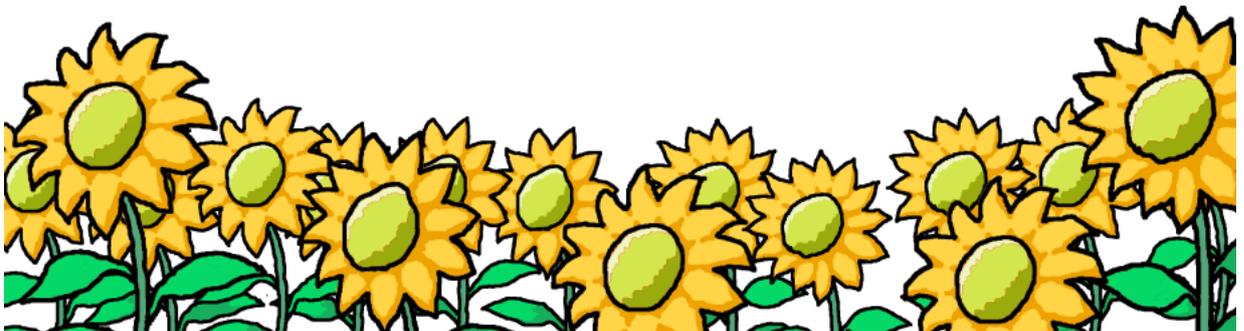
指 標 名	親のまなびあいプログラムの受講団体数
指標の意図 ・ 説明	受講団体を増やしていくことで、より多くの保護者がプログラムに参加する機会を増やしていきます。そのことが結果として家庭教育力の向上につながります。
現 状 値	15 団体 (2016 年)
めざそう値 (単年度値)	16 団体 (2020 年)
	17 団体 (2022 年)
	17 団体 (2024 年)

(親のまなびあいプログラム)

沖縄県で取り組んでいる家庭教育支援の一環として【夢実現「親のまなびあい」プログラム】があります。家庭教育に関するさまざまな悩みや経験を参加者が話し合うことで、悩んでいるのは自分だけではないと実感し、解決のヒントを得ることにつながるプログラムを開催しています。

方策② 地域教育力の充実

青少年健全育成の充実や青少年団体（市青少年健全育成市民会議、市青年団体連絡会、市子ども会連絡協議会等）の支援に努めることを通して、地域教育力を高めていきます。



柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策② 地域教育力の充実

ア「放課後子ども教室の拡充」

放課後の子どもの安全・安心な居場所づくりを目的として、「放課後子ども教室」の活動を推進していきます。具体的には、学校施設等を利用し、子どもたちに対して、伝統文化・芸能、スポーツ、学習支援等の多様な活動を提供します。地域の大人が運営スタッフやボランティアとして参加することで、地域教育力の充実に努めます。

28) 指標とめざそう値

指標名	放課後子ども教室に関わるスタッフ（推進員・サポーター・コーディネーター、ボランティア）の参加人数
指標の意図・説明	放課後等の子ども教室に継続的に関わる地域の方々を増やすことにより地域の教育力の充実に努めます。
現状値	277人（2016年）
めざそう値 （単年度値）	292人（2020年）
	298人（2022年）
	298人（2024年）



放課後子ども教室

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策② 地域教育力の充実

イ「“やる気・元気旗頭フェスタ in なは” 事業の充実」

地域の伝統文化を通して、児童生徒の健全育成を地域ぐるみで推進するため「那覇市青少年健全育成市民会議」に委託して、“やる気・元気旗頭フェスタ in なは”を開催します。各小中学校の教師や地域住民の有志が、児童生徒へ旗頭活動の指導・助言等を継続して行うことで、地域の教育力を高めていきます。

29) 指標とめざそう値

指標名	“やる気・元気旗頭フェスタ in なは”に関わる大人の参加人数
指標の意図・説明	伝統文化である旗頭を学校と地域が連携して取り組むことにより、児童生徒が地域に愛着と誇りをもてるように努めます。地域の大人の参加者を増やしていくことで地域内の連携強化につなげていきます。
現状値	299人(2017年)
めざそう値 (単年度値)	305人(2020年)
	310人(2022年)
	310人(2024年)



第11回やる気・元気旗頭フェスタ in なは

(那覇市青少年健全育成市民会議の活動紹介)

那覇市青少年健全育成市民会議は、那覇市の青少年健全育成の実践団体として、1981(昭和56)年に結成され、青少年に関わる関係機関、団体及び一人ひとりの力を結集し、相互の連携をとりながら、市民ぐるみで、青少年の健全育成を推進していく団体です。「那覇市少年自然体験の船」をはじめ、「那覇市少年の主張大会」、「青少年健全育成綱引き大会」等、様々な事業を実施しています。

柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～

方針(2) 家庭教育力・地域教育力の充実

方策② 地域教育力の充実

ウ「御万人すりていクリーン・グリーン・グレイシャス運動の実施」

「地域の子は地域で守り育てる」ために、地域清掃や健全な環境づくりを目指す「クリーン活動」と、地域の行事に地域全体で取組み、子どもたちと触れ合う「御万人のふれあい活動」を展開し、青少年の健全育成と地域教育力の向上を図ります。

30) 指標とめざそう値

指標名	CGG運動の参加人数
指標の意図 ・説明	学校や自治会へCGG運動を推進し、地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守るための地域教育力の向上と充実に努めます。
現状値	19,500人(2016年)
めざそう値 (単年度値)	20,000人(2020年)
	20,500人(2022年)
	20,500人(2024年)



柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

本県は、琉球王朝時代^{*}や大交易時代にみられるように、独自の歴史・文化を育んできました。中でも那覇市は、政治・経済の中心地として、多くの国・県・市指定の文化財が存在します。さらに、伝統芸能や祭り行事も盛んであり、これらの資源を生かしていくため、次の方針・方策によりネットワーク化を図り、伝統文化の保存・活用及び新たな文化活動を創出します。

方針（1） 歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進

那覇市内の世界遺産をはじめとする文化財について、市民への啓発と理解を深めるため、歴史散歩マップの販売や世界遺産等の解説会・講演会・講座等により、教育普及を推進します。また、発掘整理した埋蔵文化財^{*}等の公開展示を推進します。

市民が積極的に参加・創造する事業や、伝統芸能公演等の鑑賞事業に取組み、市民の文化・芸術活動の活性化と伝統文化の普及・継承・発展につなげていきます。

方策① 歴史・文化資源等を生かした事業の充実

世界遺産等の文化財に関する市民への学習機会の充実を図ります。また、沖縄の伝統文化の基層であるうちなーぐち^{*}の活用や、市民の文化・芸術活動の発表の機会を創出し、広く文化・芸術に触れあう機会を提供することで、生涯学習の推進を図ります。

琉球王朝時代：1879年までの廃藩置県にかけて沖縄本島を中心に存在した王国。最盛期には奄美群島と沖縄諸島及び先島諸島までを統治した。勢力圏は小さな離島の集合で、小さな王国ではあったが、隣接する大國明・清の海禁や日本の鎖国政策の間であって、東シナ海の地の利を生かした中継貿易で大きな役割を果たした。その交易範囲は東南アジアまで広がりがあった。

うちなーぐち：首里の方言。琉球王国の時代、王府首里城のある首里の共通語。

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針（１） 歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進

方策① 歴史・文化資源等を生かした事業の充実

ア「展示会・解説会の充実」

市民の文化財に対する知識と理解を深め、生涯学習の場としての活用を促進するため、世界遺産である識名園・玉陵における世界遺産解説会の実施や埋蔵文化財の解説会・展示会における発掘調査現場・出土品を紹介する等の公開展示を充実していきます。

31) 指標とめざそう値

指 標 名	文化財展示会・解説会の開催数		
指標の意図 ・ 説明	世界遺産解説会及び埋蔵文化財の展示会等の広報活動を強化することで、開催日等を周知させ観覧者を増やし、市民の生涯学習機会の充実を図ります。		
現 状 値	15回（2016年）		
めざそう値 (単年度値)	18回（2020年）		
	24回（2022年）		
	24回（2024年）		

(展示会・解説会の開催実績)

年 度	2014	2015	2016
開催数	15回	14回	15回



埋蔵文化財の解説会①



埋蔵文化財の解説会②

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針(1) 歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進

方策① 歴史・文化資源等を生かした事業の充実

イ「歴史・文化講座の充実」

市民に対し、那覇の歴史に関する知識の習得と理解を深めてもらうため、学芸員等の専門職員の資質を高めることを通して、地域団体（首里振興会等）との共催による地域密着型の歴史・文化講座を充実していきます。

32) 指標とめざそう値

指標名	歴史・文化講座（首里大学等）の受講者数
指標の意図・説明	地域団体（首里振興会）等との連携による那覇の歴史・文化に関する魅力ある講座の開催と受講者を増やして、市民の生涯学習機会の充実を図ります。
現状値	371人（2016年）
めざそう値 （単年度値）	380人（2020年）
	380人（2022年）
	380人（2024年）

（首里振興会の活動紹介）

首里振興会は、その前身である「首里文化祭実行委員会」を発展的に継承し、2007（平成19）年に発足した団体です。琉球王朝祭り首里をはじめ、各種のイベントの開催、首里大学等多彩な文化活動を通して、首里地区の振興・発展に尽力しています。



首里大学の様子

首里振興会HP <http://syuri-sinkoukai.com/>

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針(1) 歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進

方策① 歴史・文化資源等を生かした事業の充実

ウ「出前こども博物館講座の充実」

壺屋焼について解説した展示パネルや実物の焼き物を市内の小中学校、公民館等に持ち込み出前博物館を開設する事業。壺屋焼の歴史についての授業や、陶工さんの指導による面シーサー作り体験教室を実施。沖縄の伝統工芸や地域の歴史文化について学ぶ機会を提供します。

33) 指標とめざそう値

指標名	出前こども博物館の講座数
指標の意図・説明	沖縄の伝統工芸「壺屋焼」に関する出前子ども博物館事業（体験、展示、授業）をとおして、子どもたちの伝統工芸や歴史文化に対する理解を深めます。
現状値	7回（2016年）
めざそう値 （単年度値）	9回（2020年）
	10回（2022年）
	25回（2024年）



壺屋小学校での出前講座



小禄南小学校での出前講座

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針(1) 歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進

方策① 歴史・文化資源等を生かした事業の充実

エ「沖縄の伝統文化の基層であるうちなーぐちを活用した質の高い生涯学習機会の提供

沖縄の伝統文化の基層であるうちなーぐちを活用した生涯学習の機会を提供することにより、質の高い生涯学習の充実と伝統文化の継承発展へつなげます。

34) 指標とめざそう値

指 標 名	「今後うちなーぐちを少しずつ使いたいと思う」人の割合
指標の意図 ・ 説明	うちなーぐち講座・成果公演を開催し、参加者に対し直接実施したアンケート回答から、質の高い生涯学習の機会が提供されているかを計ります。
現 状 値	—
めざそう値 (単年度値)	80% (2020年)
	80% (2022年)
	95% (2024年)

(うちなーぐち講座・成果公演の開催)

文化振興課では、沖縄の伝統文化の基層となるうちなーぐちの普及継承を図るため、市民の皆様を対象としたうちなーぐち講座を開催し、成果公演にてその学習の成果を発表していただく「うちなーぐち講座・成果公演」を実施しております。

一般公募にてお集まりいただいた市民の皆様には、沖縄芝居役者等の実演家を講師とした講座を約4か月間にわたり受講いただき、成果発表公演にて、沖縄芝居等を上演していただいております。

今後も講座・成果公演ともにバラエティに富んだ企画を行い、受講生のみならず、成果公演に足を運んだ方々についても、うちなーぐちに親しむ機会となることで、市民の皆様の生涯学習の推進が図られるよう支援してまいります。

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針（1）歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進

方策① 歴史・文化資源等を生かした事業の充実

オ「市民の文化・芸術活動の発表の機会の創出による文化・芸術に触れあう機会の提供」

市民の創作活動の活性化を図るため、広く文化・芸術活動を発表する機会を創出し、文化・芸術活動に触れ合う機会の提供を行います。

35) 指標とめざそう値

指 標 名	なは市民芸術展へ作品を出展する応募者数
指標の意図 ・ 説 明	市民の創作活動の目標や動機となるよう、本市独自の芸術展を開催し、広く発表の機会を創出することで、多くの市民の皆様が文化・芸術に触れあう機会の提供につなげます。
現 状 値	125 人（2016 年）
めざそう値 （単年度値）	135 人（2020 年）
	140 人（2022 年）
	150 人（2024 年）

（なは市民芸術展の開催）

文化振興課では、市民の文化・芸術活動の活性化を図ることを目的に、絵画、版画、彫刻、デザイン、写真、書道の分野から広く作品を募集しており、入賞・入選作品には賞状を授与し、那覇市民ギャラリーにて展示・公開する「なは市民芸術展」を実施しております。

本芸術展は、平成 29 年度で第 10 回を数え、回を重ねる毎に学生や若い世代の出展が増加し、本市独自の市民芸術展として着実に浸透してきております。

入選作品の展示のみならず、各分野の審査員から直接作品の講評を聞くことが出来る「ギャラリートーク」や、子どもワークショップ等、市民の皆様幅広く文化・芸術に触れ合う機会を提供し、文化・芸術活動を支援してまいります。

方策②：市民との協働による歴史理解・文化の振興

世界遺産等の文化財や伝統工芸、伝統芸能等の資源について、ボランティアの協力及び地域団体等との連携により、市民への学習機会の充実を図るとともに、那覇のまちの魅力の情報発信に努めます。



柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針(1) 歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進

方策② 市民との協働による歴史理解・文化の振興

ア「文化財案内ボランティアとの連携強化」

地域の歴史・伝統文化等について、多くの市民や観光客を啓発していくことは、生涯学習機会の拡充につながります。

世界遺産である「玉陵」「識名園」等、市内の文化財について、史跡めぐり案内講師「案内親方」、識名園ボランティアガイド「識名里主」について、ガイドの広報活動を強化し利用促進に努めます。

36) 指標とめざそう値

指標名	史跡めぐり案内講師「案内親方」・識名園ボランティアガイド「識名里主」の利用回数
指標の意図・説明	生涯学習機会の拡充のため、広報活動を強化するとともに、「案内親方」、「識名里主」のボランティアガイドと連携しその利用回数を増やすことに努めます。
現状値	176回(2016年)
めざそう値 (単年度値)	190回(2020年)
	190回(2022年)
	190回(2024年)



史跡めぐり案内



識名園ガイド

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針(1) 歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進

方策② 市民との協働による歴史理解・文化の振興

イ「地域団体との連携強化」

地域団体等と地域の伝統工芸や、文化財等を生かした事業を連携して実施することで、地域の共通軸である歴史や伝統文化を基にした地域のネットワークづくりを推進します。

37) 指標とめざそう値

指標名	地域団体との共催事業数
指標の意図・説明	自治会や通り会等地域に根差した活動を行っている団体等と地域にある歴史文化資源を生かした事業を連携して取り組むことで、地域のネットワークを拡げ、協働によるまちづくりの推進を図ります。
現状値	5件(2016年)
めざそう値 (単年度値)	6件(2020年)
	7件(2022年)
	7件(2024年)

壺屋陶器事業協同組合(28窯元)、壺屋やちむん通り会(43店舗)、壺屋町民会自治会、壺屋焼物博物館友の会



壺屋やちむん通りまつり



壺屋でシーサーの日

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針（1） 歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進

方策② 市民との協働による歴史理解・文化の振興

ウ「那覇まちま〜い利用の充実」

市民や観光客等がガイドと一緒に歩きながら那覇のまちの魅力を知ることは、まちに対する愛着を深め、老若男女問わず生涯学習の機会となります。一般社団法人那覇市観光協会と協働し、地域特性を活かした事業の企画実施、市民への学習機会の充実、まちの魅力の情報発信に努めます。

38) 指標とめざそう値

指標名	那覇まちま〜い利用者数
指標の意図・説明	市民や観光客等がガイドと共に那覇のまちの歴史や文化を学ぶことで、まちへの愛着が深まり、生涯学習の機会充実につながるため、那覇まちま〜い利用者を増やすことをめざします。
現状値	15,288人（2016年）
めざそう値 （単年度値）	23,800人（2020年）
	30,000人（2022年）
	30,000人（2024年）

（那覇まちま〜いについて）

（一社）那覇市観光協会が主催する「ガイドと歩く 那覇まちま〜い」は、地域の人材を活用して、那覇市内での体験・交流をテーマに、観光客も地元客も楽しめる通年型イベントとして開催しています。

季節限定コースや期間限定イベントコース等を交えながら、市内各地で多種多様なまち歩きを提供。首里城めぐりやマチグラーめぐり等の定番コースの他、家族や友人同士で参加し、地元の魅力を再発見できるコースが数多くあります。

各コースの所要時間は約2時間。基本料金は大人1,000円～、小人500円～。参加者1名でも出発します。（コースによって料金、人数に変更あり）。

○那覇まちま〜いHP <http://naha-machima-i.com/>



沖縄最大マチグラー迷宮めぐり



奥武山と山下町すいじくわーま〜い

柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

方針(1) 歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進

方策② 市民との協働による歴史理解・文化の振興

エ「なは青年祭を通じた青年層の交流促進

なは青年祭は、地域の伝統芸能や文化の継承に努めている青年団体等の日頃の活動を発表する場を設け、広く市民に知らせるとともに、青年同士の交流と団体の活性化を図ることを目的に開催しています。

39) 指標とめざそう値

指標名	なは青年祭参加団体数
指標の意図 ・ 説明	なは青年祭へ出演する団体を増やし、青年団体等の活性化を支援します。
現状値	18 団体 (2016 年)
めざそう値 (単年度値)	20 団体 (2020 年)
	22 団体 (2022 年)
	22 団体 (2024 年)

(なは青年祭の経緯)

各地域青年相互の交流、連携を図り、併せて市民意識の高揚につながることを目的に平成5年9月に「第1回那覇青年祭」を開催し、出演10団体で2,000人余りの観客が集まった。その後、組織の拡大強化を図るため、同年11月に「那覇市青年団体連絡会」(以下、「連絡会」という)が結成された。以降、連絡会を中心に「なは青年祭」が開催されている。